

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|---------------|
| 事業所番号 | 4072300462 |
| 法人名 | 社会福祉法人 南八女福祉会 |
| 事業所名 | グループホーム いずんじま |
| 所在地 | 福岡県八女市川犬1025 |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年2月18日 | 評価結果確定日 | 平成25年3月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた静かな立地条件を生かし、落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送れるよう配慮しながらサービスを提供している。近くにある市立保育所・小学校等の子どもたちとの交流も年に数回行ない、子どもとも触れあえる環境作りを構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に、同法人のデイサービス事業所と共に位置している。周囲は茶畑や住宅地があり、田園風景が広がっている。昨年の豪雨で、同法人内の事業所が水害を受けたこともあり、法人・事業所全体で災害対策に対する意識を高めている。2ユニット名の「あかり」「しずく」は八女の特産である八女灯ろうの「あかり」と、星野茶の「しずく茶」から名づけられており、地元への思いがうかがえる。毎年、デイサービスと合同で行われる秋祭りは、地域の方の協力もあり200人以上の参加を得て盛大に開催され、事業所と地域住民との交流を深める良い機会となっている。又、昨年秋より始まったサービス連携会議は、行政のサポートを受けており、グループホーム事業所間の連携や質の向上に果たす役割が大である。今後、更に地域との連携を図りながら、入居者・家族の思いに寄り添い共に歩み、お一人おひとり、その人らしい暮らしの実現に向けた取り組みが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者と同じ空間で生活している中で、ゆっくりと流れる時間の中共に育んでいく生活を大事にしていきたいと考えています。しかしながら職員には浸透しにくく今後とも努力が必要です。 | ・理念は玄関に掲示している。「一歩ずつ、共にはぐくむ、あたたかな生活、ゆとりの心と思いやり」をホームの理念としている。開設時職員で作成した理念ではあるが、充分には浸透していないと感じている。今後に向け理念の浸透に努めていく考えである。 | 職員からも、より具体的にどの意見もあり、職員の理念に対する意識向上の良い機会ととらえています。又、理念を身近に感じるためにも、職員と共に話しあう機会を多く持ち、理念の再構築に向けて取り組んでいく意向である。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議では地元行政区長・民生委員・主任児童委員に参加をお願いし、毎年恒例になっている秋祭りは地域の方々も数多く訪れ、地域保育所・小学校児童も日常的に訪れている。 | ・事業所前が小学校の通学路になっており、ホームも子供110番の役を引き受けている。隣接するデイサービスと合同で開いている秋まつりには、出店や催し物もあり、地域の協力を得て、盛大に開催されている。小学校や保育所とも交流し、自治会の掃除などに参加して、日常的に交流を積み重ねている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考え子ども110番(安全ハウス)の登録を行なっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事の報告や予定、事業所の取組などを報告・説明し、サービス向上につなげる事が出来るよう配慮している。 | ・市職員、民生委員、行政区長、主任児童委員、家族の参加を得て、定期的に開かれている。職員が地域に居住している事もあり、顔なじみの方も多く、多方面より情報をいただいている。会議では、行事報告や、意見交換がなされ、サービス向上につなげている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 行政と合同で行っているサービス連携会議や運営推進会議等で行政担当者との交流を図っている。 | ・昨年、発足されたサービス連携会議は、行政のサポートを得て今春より本格活動に入る事となった。運営推進会議では、市の職員の参加があり、相談や、アドバイスをいただいている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行わないよう取り組んでいる。玄関の施錠も行わない。 | ・各ユニット「あかり」「しずく」とも施錠はしていない。外出の意向がある場合には、一緒に出かけ見守りをしている。最近では、早めに職員の方から声をかけ、散歩に誘っている。管理者が業務の中でその都度職員と話し、意識を共有し拘束しないケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修を交え防止に努めている。施設内外の研修を通じ今後も努力する。 | | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在入居者の一名が利用中である。本人や家族の申し出がある場合、説明等行えるようにしている。 | ・社協を通して、制度を利用する様になった入居者の方がおり、毎月職員の訪問がある。入居の時に制度についての説明は行っている。パンフレットや資料は事務所に用意されていて、問い合わせに対応できる様にしている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行ない、理解を求めて交付している。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居時苦情処理の説明を行なっているが現時点では無いため反映は行われていない。 | ・意見箱を設置しているが、今のところ利用されていない。直接話される方が多く、面会時に話を伺ったり、入居者の様子をお知らせしている。又、入居時に相談窓口についてもお知らせしている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の定例会議で議題や今後行いたい研修などの意見を聞き反映している。 | ・毎月2ユニット合同で定例会議を開催し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。現在職員からの要望でAEDの使用方法について、専門業者の講習を受けることが決まっている。職員の名札も以前のものから使いやすいものに変更された等、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 可能な限り配慮している。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 年齢や性別で可否の結果を出すことはない。一人ひとりの能力で判断している。 | ・法人採用ではあるが、事業所管理者が直接面接を行い、採用にあたり、特に制限は設けていない。65歳定年制はあるが、再雇用制度も確立している。「人柄」を重視し、面接時には必ず、「福祉の仕事に対する思い」や本人の「自分の長所、短所」について、聞いている。資格取得や研修については、希望休や勤務スケジュール調整で対応し、今年から新人にはベテラン職員と組み業務に携わる等の試みを行っている。全職員にとって働きやすい職場作りに努めている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 実績なし | ・日々の業務の中での対応や、言葉かけなどから浸透していると考えられるが、研修の中で取り上げ、理解を深め、周知を図ることがより大切だと考えている。 | 様々な視点から、入居者の方々の人権について意識を高められるよう、研修機会の確保に取り組む意向である。 |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 育成計画はないが段階に応じて職務内容を考え、その都度内部研修を行なう。能力に応じて外部研修等機会を設けている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地区介護保険事業者連絡協議会・サービス連携会議に所属し、開催される勉強会や研修等に参加している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 精神・身体状況を勘案したアセスメントシートを家族に記入してもらっている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に困っていた事や不安に感じた事等の聞き取りを行ない、ホームでの生活に役立つ事が出来るようにしている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実際に家族はギリギリまで我慢をしようかと思いついて追いつまなかった状況で入居の相談に来る事が多い。それを踏まえて相談に乗るよう配慮している | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 努力している | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | サービスを行なう上で家族の聞き取りが役に立つ事が多々あるので綿密な連絡を取れるように配慮している。 | | |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 努めている。 | ・自室の電話を使い、家族、友人に連絡や買い物をするのんでいる方もいる。又、友人の面会が多い方もあり、面会時はお部屋でゆっくりおしゃべりを楽しんでいる。馴染みの人や場所の関係が途切れないように配慮している。 | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 他入居者との関わりが持て、共に共同生活が営めるよう配慮している。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて情報の提供等行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 配慮している。 | ・面会時ご家族から話を伺ったり、遠方の方には電話連絡行っている。又、思いやりノート、ケアチェック表をもとに、現状についてお話しし、ご家族と話し合いを重ねる中で信頼関係を築き、思いや意向の把握に努めている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントシートの情報や家族からの聞き取りを重視している。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日勤者・夜勤者の申し送りを綿密に行ない、状況の把握に努めている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現状に沿うよう心がけている。 | ・職員間の申し送りのための「なんでもノート」に日頃の様子を記入している。モニタリングを行い、なんでもノート、状態記録などを参考にして職員全員で話し合い、本人・家族・必要な関係者との連携を図り、本人の現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りの為の記録を何種類か準備し、場面場面に応じて記入できるように考えている。 | | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からの主治医はそのまま継続して頂いている。事業所として主治医と良い関係が築けるよう配慮している。 | ・本人や家族の希望されるかかりつけ医の継続受診や、協力医による月1回の往診がある。かかりつけ医の受診の際には、個人記録を持参し、医師に身体状況と共に日常の様子を報告している。受診後はご家族に報告し、情報の共有に努めている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | それぞれの主治医とは普段から看護師・受付等を通じ相談・報告を行ない、連携は取れている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 地域医療室等と連携を行ないスムーズな入院治療が行えるよう協力している。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 行なっている。 | ・入居時に事業所としての方針を説明し、意向の確認をしている。重度化した場合は、再度話し合いを重ね、事業所として、出来ること出来ないことを説明し、家族の希望に添える様支援する用意がある。 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心がけている | | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|------------------------------------|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に二回の避難・消火訓練を行なっている。 | ・年2回避難訓練を行っている。消防署立ち合いのもとでの訓練は2年に1回行われ、その時は同法人のデイサービスも参加し、合同訓練が行われている。昨年同地方が水害を経験したこともあり、天気予報を確認し備蓄の内容をきめている。現在、夜間想定訓練は行っていない。 | 人員の少ない夜間を想定する訓練実施や、地域との連携を確認する機会を設け、より実効的な訓練となるよう取り組んでいくことが期待されます。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 心がけている。 | ・入居時にプライバシーに関する、同意書をいただいている。排泄ケアや入浴支援など、同性介助を基本とし、プライドや羞恥心への配慮に努め支援を行っている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 選択できるように心がけている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望により買い物に行き好みの洋服を購入し、身だしなみ気をつけている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 機能的に可能な方にはそれぞれの役割の中で段階的に手伝って頂いている。 | ・平日の昼食は法人厨房で調理し、朝、夕食、日曜日の調理は、半調理品の使用を含め、ホームの方で行っている。入居者の身体状況に応じて、普通食、刻み、ミキサー食と個別に対応し、誕生日には手作りのおやつを用意し、可能な方にはお手伝いをさせていただく等、食事を楽しむことが出来るように支援している。 | |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の計算の下食事を提供している。 | | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|-------------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯の消毒・歯磨き等毎日行っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 配慮し、支援を行なっている。 | ・各室に洗面所・トイレがあり、共用トイレと共に各自、自由に使用している。自室でのトイレチェックは、教えてくれる方もいるが、職員の方で気を付けて、確認する様になっている。排泄チェック表を活用して、パターンを把握する様に努め、適宜にトイレに誘導している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 主治医との連携のもと予防に取り組んでいる | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は毎日可能で、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。 | ・希望により毎日入浴出来るように準備をしているが、週2～3回の方が多。時にはバスクリンやゆず湯などを使用し雰囲気を変え、入浴へと繋げている。脱衣所には暖房が入り、温度差に配慮されている。洗面台には、男性用の髭剃りなど個別に用意され、使いやすく整理されている。シャンプーも個人用、共用とあり、個々に対応している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠い時は居室にて昼寝をして頂いたり配慮している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医より全ての薬の説明をいただき薬科辞典も常備し、理解を深めている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 支援している。 | | |

福岡県 グループホーム いずんじま

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩等積極的に行っている。また、外出レクを通じて、四季を感じてもらったり普段は行かないような場所へも行けるようほぼ毎月企画立案を行なっている。 | ・天候や希望、身体状況に応じて、少人数で近隣への散歩に出かけ、途中の自販機でジュースを購入し、一息つく時間も楽しんでいる。又、年間行事計画作成し、月1回は全員対象にデイの車でドライブに出かける等行い、季節を感じていただける様に外出支援には積極的に対応している。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一部の入居者では自ら所持金を持ち自分の意思で使っている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 全ての部屋に電話を引く事は可能。一部の入居者は行なっている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 周りは畑や茶畑に囲まれた静かな地域で外部からの騒音等はない。 | ・全体的に、ゆとりあるスペースが確保され、居間兼食堂には、障子で囲まれた畳の部屋もあり、落ち着いた空間になっている。壁や玄関には、季節感あふれる入居者の作品が飾られている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う方同士が近く席に座れるよう配慮したり、畳の部屋も有る。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅から使い慣れた家具を持参してもらったりプライベートスペースとして住みやすくなるよう配慮している。 | ・各居室入口にトイレ、洗面台が設置されており、居住スペースとは区切られている。筆筒、テレビなど、馴染みのある物や好みの物が置かれ、衣類などはクローゼットに収納し、どの部屋も整理整頓され、居心地よく過ごせることが出来るように工夫されている。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し、部屋を間違えたりしないように工夫している。 | | |